星座に就て所感（遺稿）

ヰリアム・H・ピカリング

或る日の事，氣持の好い椅子に坐つて，雜多な學生が議論を闘はして居るのを私は傍聽して居た．話題となつたのは天文學であつて，驚いた事には，どの質問も大部分は氣のきいたもので，殊に一少年——聞けば歳15歳とのこと——の質問が筆者の興味心を惹いた．

彼は星座を特別に研究する爲，全天で最も優れた星座の名稱を教師に尋問した．之に對して教師は約50ケの星座の表を少年に示したが，之は全く正確なものであつたけれど，少年の期待に叛くものであるのが直ぐと譯つた．

歸途，私は先程の質問應答の事どもを思ひ巡らし，之迄多くの人々に星座を指摘して來たが，其の中最も重要な星座はどれだらうかと尋ねたものがなかつた．

直ぐと腰を下して最も主要な星座表を採り出して見た．次の表は前記の教師が應答したものよりは，少年に取つて一層有益なものと思はれた．

主要な星座の表

固有名	俗名
1. オリオン	大星霧
2. 大熊星座	チヤールズの車，柄杓，熊
3. カシオペヤ星座	W
4. 蝎星座	蝎
5. 牛星座	牡牛
6. 獅子星座	獅子
7. 双子星座	双子——カストアとポルクス
8. 山羊星座	山羊
9. 矢星座	矢
10. 射手星座	二本の弓を持つ射手
11. 牧夫星座	熊を追ふ獵犬——二疋の犬
12. 北冠星座	北冠
13. ペルセウス星座	ギリシヤの英雄
14. 海豚星座	海豚
15. 白鳥星座	白鳥

上記に加へて，北國では見られない南國の星座の一團を採り出すことも出來る．最初に南十字星を見る者は誰しも殆んど失望する．之は南十字星が只極め

て不規則な十字架の形をして居るからだと思ふ．其の上，どの星も極めて明るさが不揃ひで，其の一つは光度が極めて劣つて居る．

其の上，吾人の祖先のある者は，極めて宗教的であつて，星座中の“二從者”と呼ばれる星を含めるのを望まなかつた．假りに斯樣に含めて見ると，星座は極めて立派なものとなる．

又，白鳥星座を描く北十字がある．之は目立つた天體ではなく，むしろ其の形からして呼ばれるに過ぎない．尙ほ，“エセ十字架”として知られて居る第3の天體がある．之は本統の南十字星に3時間丈先立つて居る．此の“エセ十字架”は赤經 9^h，赤緯 $-54°$ に見出され，天體中最も目立つ十字架である．

然しオリオン星座にも亦十字架と呼ばれるべきものがある．之は帶の所にある3個の明るい星と，殆んど刀柄θ星の下に同樣な明るさの星が一つある．此の明るい星は“イ星”である．

オリオンの帶の下の，6個の星と共に，之等5個の星は完く均衡の採れた十字架を描き，どの星も殆んど相等しい光度である．之は又，南北に走る中央線と共に，天空におかれて，小さいグルイプを描いて居る．

此のグルイプは大略南十字の形狀である．

此の十字架に就いて今迄聞いた事がないが，少くとも他の十字架に劣らずに立派なものであると思ふ．(1937年七月9日 Jamaica の Mandeville にて)

聖地の冬の夜の空

1927年十二月20日午前4時，窓洩る月の影の鮮かさに何心なく起き出て天空を仰げば，コハ如何に，約40度に傾ける上弦の月は溶くるが如き光をたゝへ，其弦の中央に當り金星は寶石の如く紅綠に笑みて燦たり．之れ言ふまでもなくマホメットの敎章にして又トルコの國章なるものが此天象より出でたるものなりとす．余は餘りの神々しさに寒さも忘れて凝視しけるが，雲のため15分後には見る能はざりき．而して其後每朝其時刻に起き出でたるも，月と星との位置相異り，遂に見るを得ざりき．思ふに1年1回か或は幾年目に1回位の珍らしき異象ならんか．越えて十二月24日夜バルコニに上りてイエスの降誕を偲ばんとベツレヘムの街道の眞上に當りて同じく金星が恰も我を招くかの如く閃き居るを見たり．しかも其閃きや尋常ならずして，呼べば應へんとするに似たり．思ふにペルシヤの博士たちが同じく此星に導かれてベツレヘムにキリストを訪ひ，其の降誕を拜しまつりしなるべきか．

實に冬の夜のパレスタインの空は余をして夜の更くるを忘れしめたり．

(酒井柳琴先生著書より)